

地震ハザードマップ

南海トラフ地震に関する情報

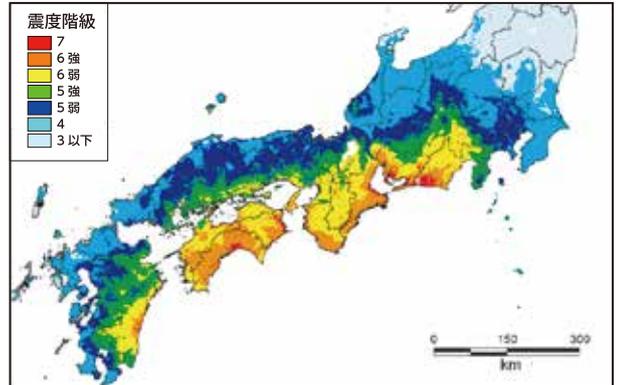
南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘にかけてのプレート境界を震源域として、おおむね100～150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震です。地震調査研究推進本部の長期評価によると、マグニチュード8～9クラスの地震が今後30年以内に発生する確率は70～80%（令和5年1月1日現在）とされています。

中央市は南海トラフ地震防災対策推進地域に含まれており、南海トラフ地震発生時には被害が予想されています。

「南海トラフ地震臨時情報」は、南海トラフ沿いで異常な現象が観測された場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に、気象庁から発表される情報です。情報名の後にキーワードが付記され「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」等の形で情報発表されます。

気象庁において、マグニチュード6.8以上の地震等の異常な現象を観測した後、5～30分後に南海トラフ地震臨時情報（調査中）が発表されます。その後、「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の臨時会合における調査結果を受けて、該当するキーワードを付した臨時情報が発表されます。

キーワードに応じた防災対応が呼びかけられますので、呼びかけの内容に応じた防災対応をとってください。



出典：気象庁

南海トラフ地震に関する詳しい情報はこちら

気象庁ホームページ

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>



震度別ゆれと被害

震度4

ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、ゆれを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。



震度5弱

大半の人が、恐怖を覚え、ものにつかまりたいと感じる。



震度5強

大半の人が、ものにつかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。



震度6弱

立っていることが困難になる。耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。



震度6強

はわないと動くことができない。飛ばされることもある。耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。



震度7

耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。



いつ・どうやって逃げるのか

地震がきたら、けがをしないように落ち着いて冷静に行動することが必要です。今、地震が起きたらどうするか、考える習慣をつけましょう。

緊急地震速報を見聞きしたら

震源から遠い場所では、緊急地震速報が発表されてからゆれが起こるまでに時間がかかります。ゆれがこなくても緊急地震速報を見聞きしてから1分程度は、身を守るなど警戒しましょう。



地震発生

グラっときたらシェイクアウト

とにかく自分の身を守りましょう。落ち着いて机の下に入る、頭を保護する、ガラスから離れるなどの行動をとりましょう。



大ゆれがおさまったら

台所やストーブなどの火の始末をしましょう。避難のときはブレーカーを落とすこと、ガスの元栓を閉めることも忘れないようにしましょう。



10分

安全が確保できたら

自分の身の安全を確保できたなら、ガラス片や転倒家具に注意しながら、家族の安全確認、避難のための出口の確保を行いましょう。



外に出た後

隣近所で安否の確認をして、協力し合い、可能な範囲で倒壊家屋や転倒家具の下敷きになっている人の救助、火災への消火活動、けが人の救護などにあたりましょう。



半日

避難後数日間

地震発生後数日間は、水道、電気などのライフラインをはじめ、食料の供給が途絶えることが想定されます。最低でも3日、できれば7日は自分でしのげるように食料や生活必需品を備えておきましょう。



3日

復旧活動開始

普通の生活に戻るための生活再建と地域復興を進めます。地域の皆さんがボランティアや行政機関との協働により、進めていくことが必要となります。



地震から身を守るために

屋内にいるとき

①身の安全を確保(シェイクアウト)

テーブルや机などの下に身を伏せ、身の安全を確保してください。落下物や家具の転倒に十分に注意してください。



②無理せず火の始末

動けるようであれば火を消しましょう。ガスは元栓を閉め、電気器具はプラグを抜きましょう。



③出口を確保

ゆれでドア枠などが変形し、開かなくなることがあります。部屋や玄関のドアを開いておきましょう。



屋外にいるとき

①塀や壁に近づかない

ブロック塀、石壁、門柱、電柱からは離れましょう。倒れてくるおそれがあります。



②車はゆっくり左端に止める

車で走行中は、減速して安全な場所に停車します。車での避難はやめましょう。



③あわてて外に出ない

電車やバスに乗っているときは、手すりや座席につかまって、姿勢を低くします。あわてて外に飛び出さず、乗務員の指示に従いましょう。



家庭でできること

地震対策は皆さん一人ひとりあるいは家族が協力して普段から備えておく必要があります。

家の中の家具やガラスなど、地震に対する安全性についてチェックし、補強や配置換えなどを行っておきましょう。

窓ガラスには、飛散防止フィルムを全面に貼りましょう。

カーテンは防災加工のものにしましょう。

ガラスの破片によるけがを防止するため、スリッパなどの室内履きを身近に用意しておきましょう。

常時水をためておきましょう。

筋交いを入れましょう。

火元に消火器を設置しましょう。

ゆれそうなものはひもで固定しましょう。

寝室にはものをおかないようにしましょう。

基礎を補強しましょう。

懐中電灯、ラジオ、非常食、笛などが入った非常持出袋を常備しましょう。



タンスなどの背の高い家具はL型金具や支え棒で固定しましょう。

扉に留め具をつけましょう。

ゆれやすさマップ

ゆれやすさマップとは山梨県地震被害想定調査結果(令和5年5月)に基づき、中央市におけるゆれやすさの想定値を予想したものです。

この想定結果は自然状態の地盤でのゆれやすさを想定しており、宅地造成地の盛土部や埋立地等の人工改変地域では想定値を上回る可能性があることに注意してください。

南海トラフ(東側ケース)

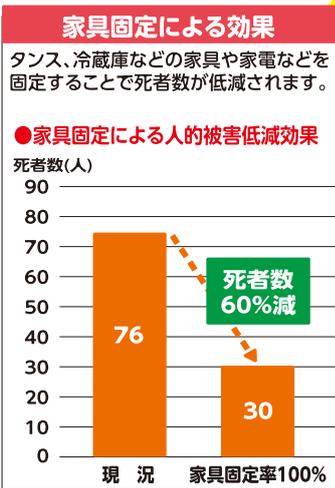
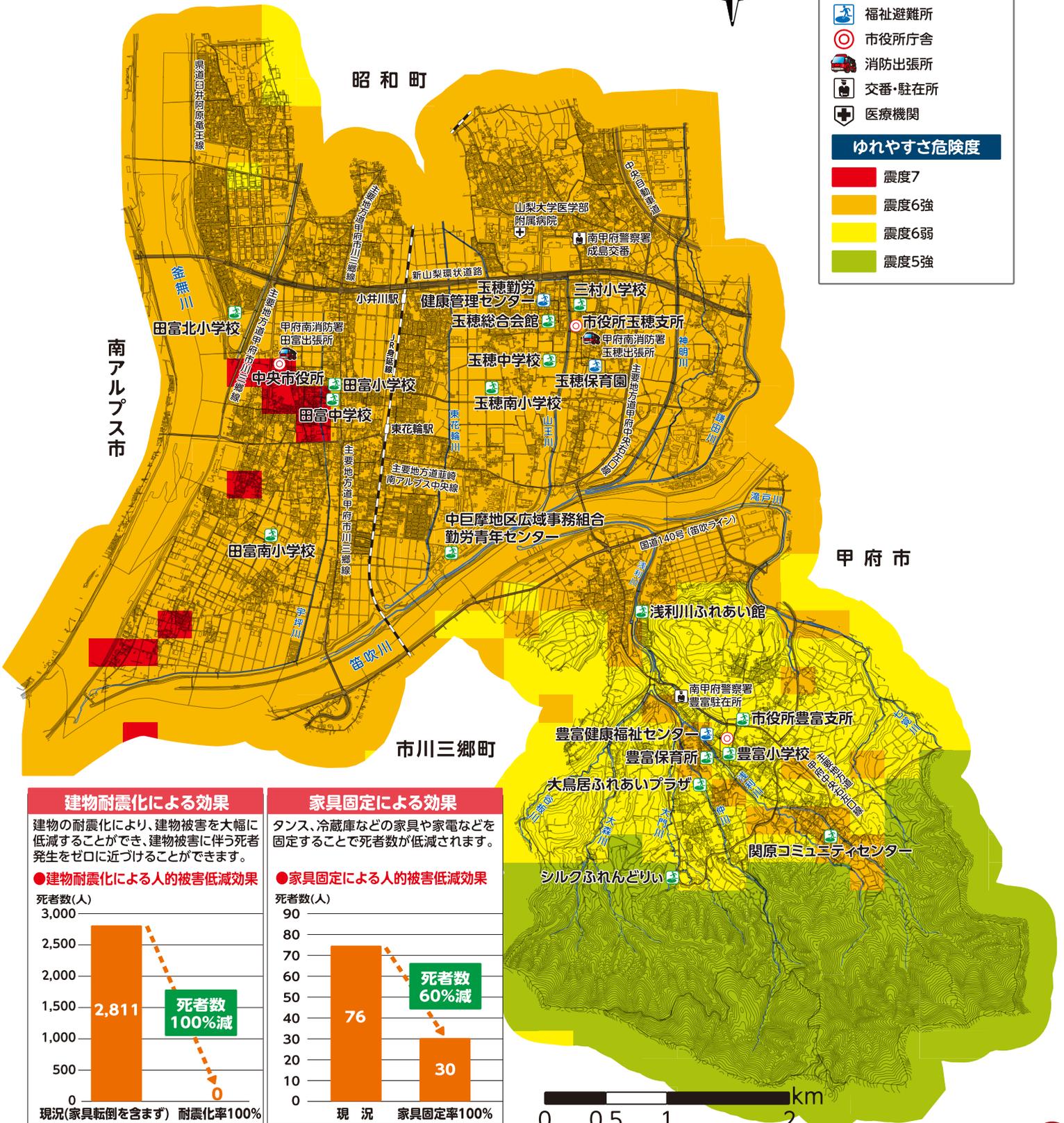


凡例

- 避難所
- 福祉避難所
- 市役所庁舎
- 消防出張所
- 交番・駐在所
- 医療機関

ゆれやすさ危険度

- 震度7
- 震度6強
- 震度6弱
- 震度5強

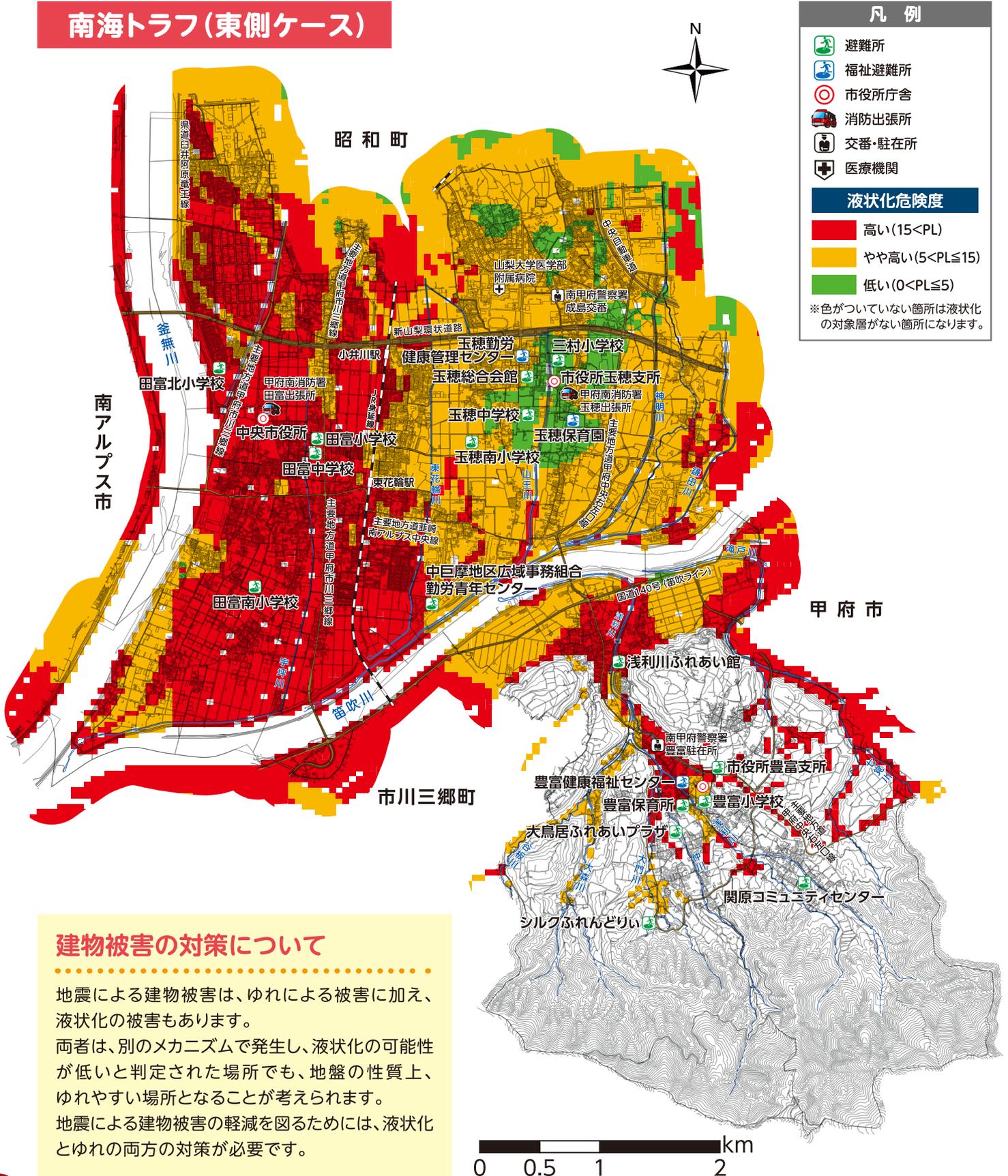


出典:山梨県地震被害想定調査結果(令和5年5月)

液状化ハザードマップ

山梨県地震被害想定調査結果(令和5年5月)に基づき、南海トラフ地震が発生した場合、中央市における液状化の危険度を予測した結果を液状化ハザードマップとして掲載しています。液状化ハザードマップの色分けは、あくまでも予測結果であることをご理解のうえ、ご活用ください。

南海トラフ(東側ケース)



建物被害の対策について

地震による建物被害は、ゆれによる被害に加え、液状化の被害もあります。両者は、別のメカニズムで発生し、液状化の可能性が低いと判定された場所でも、地盤の性質上、ゆれやすい場所となることが考えられます。地震による建物被害の軽減を図るためには、液状化とゆれの両方の対策が必要です。